ルーマニア月報

2025 年 4 月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに，
日本大使館がとりまとめたものです。

令和 7 年 5 月 9 日
在ルーマニア日本国大使館作成

主要ニュース

【内政】

- 4 月 3 日から大統領選挙活動が開始。5 月 4 日、やり直し大統領選挙第一回投票が行われ、シミオン候補（ルーマニア人統一同盟（AUR））とダン候補（ブカレスト市長、無所属）が 5 月 18 日に行われる決選投票に進出。
- 4 月 17 日、欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所（OSCE/ODIHR）は大統領選挙監視の中間報告を公表。（OSCE/ODIHR は 3 月 24 日から 5 月 25 日までルーマニアに選挙監視団を派遣。）
- 4 月 28 日、政府の年金政策に異を唱える AUR、SOS、POT が提出したブクラ・オプレスク労働大臣（PSD）に対する単純動議が上院で採択。但し、単純動議は同大臣を解任する法的根拠とはならず。

【経済】

- 4 月 10 日、ルーマニア国家統計局は、2024 年の同国経済成長率を 2023 年比で実質 0.8%に下方修正する暫定データを発表。
- 4 月 24 日、世界銀行は、ルーマニアの 2025 年経済成長率は 1.3%、2026 年は 1.9%となる旨予測。

【外政】

- 4 月 3 日、フレゼアヌ外相は、ブリュッセルでの NATO 加盟国外相会議に出席。

【防衛・安全保障】

- イタリア空軍、NATO ルーマニア領空警備任務を開始。
- 米国務省 ルーマニアへ新たな PATRIOT ミサイルの売却承認。
- ルーマニアが初の軍用無人機を開発中。

【我が国との関係】

- 4 月 1 日、片江大使は、チェケ開発・公共事業・行政大臣を表敬訪問。
- 4 月 4 日、片江大使はプレドイウ・ルーマニア副首相兼内務相と会談。
- 4 月 8 日、片江大使は、ボロシュ欧州投資・事業相を表敬訪問。
- 4 月 9 日、「ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画」（通称 M6 計画）のトンネル掘削機（TBM）の発進式がチョラク首相出席の下、M6 の Tokyo 駅予定地において開催。
- 4 月 12 日、在ルーマニア日本国大使館は、ミハイ一世公園（ヘラストラウ公園）内の日本庭園で「花見」を開催。
- 4 月 15 日、片江大使は、タンツォシュ副首相兼財務相を表敬訪問。
- 4 月 22 日、片江大使は、イントテロ 文化相を表敬訪問。
- 4 月、ルーマニア・日本友好議員連盟が発足。片江大使は、ミハルチェア・ルーマニア・日本友好議員連盟会長及びムラリウ同事務局長と面会。

内政

- **TikTok 社による報告書**
  - TikTok 透明化センターは、2025 年 3 月の報告書（全 329 ページ）を公開。そのうち 10 ページを使って、昨年 11 月のルーマニア大統領選挙について説明。ジョルジェスク候補が TikTok 上で「候補者」のラベルを貼られていなかった。
  - TikTok によれば、この選挙期間中、450 万件以上の偽の「いいね！」、150 万件の偽のフォロー申請を阻止したほか、ルーマニア国内のスパムアカウント 3.3 万件、偽アカウント約 10 万件をブロック。また、12 月 15 日～30 日の間には、規約違反をした本物のアカウント 59 件も削除。
  - TikTok が特に問題視した活動：
    - 2024 年 9 月：ルーマニア国内の 22 のアカウントがネットワークを作り、ルーマニア政府に批判的な偽情報を拡散。
    - 2024 年 11 月：ジョルジェスク候補を宣伝する目的でルーマニアから 78 のアカウントが活動。またジョアナ候補（無所属）に有利な報道を拡散する目的のルーマニアの 12 のアカウントも見つかった。
    - 2024 年 12 月：AUR とジョルジェスク候補を広報するため大量のコメントを投稿した偽アカウント 27,217 件、さらにモルドバ共和国からルーマニア人を対象に社会民主党を広報する 68 のアカウントも確認された。

- **欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所（OSCE/ODIHR）による中間報告書**
  - 4 月 17 日、欧州安全保障協力機構／民主制度・人権事務所（OSCE/ODIHR）は大統領選挙監視の中間報告を公表。内容の要約は以下の通り。OSCE/ODIHR は 3 月 24 日から 5 月 25 日までルーマニアに選挙監視団を派遣。https://www.osce.org/odihr/elections/romania/589691
  - 昨年 11 月の無効化された大統領選挙について、無効化に関する詳細な情報や法的根拠が公表されていないため国家機関に対する信頼が揺らいでいる。
  - 選挙法制は前回の選挙から大きな変更はないが、政府が選挙直前に緊急政令を発出。緊急政令の多用は法的安定性を損なう。
  - 選挙管理関連の会議が非公表であること、無所属候補や議会外政党候補の代表が十分に含まれていないことが課題。
  - 立候補には 20 万人分の署名が必要だが、署名の真正性は審査されず、形式的な確認のみ。
  - 今回の選挙運動は主にオンライン上で展開。
  - 選挙資金について、選挙運動期間以前の支出が規制対象外等、透明性に欠く。選挙管理機関は選挙資金報告書の形式審査のみで、内容の真偽等の調査権限がない。
  - 当地メディアは政党や政治家からの資金流入の透明性が低く、報道の独立性や自己検閲が懸念。
  - 選挙関連の苦情の処理は迅速と評価。しかしオンライン違反の判定には一部問題あり。
  - 国内外の選挙監視団体による投票日の監視を認めているが、選挙日の監視以外のプロセスについては規定なし。

- **労働・社会保障・家族相に対する単純動議が上院で可決（但し辞任の義務なし）**
  - 4 月 28 日、政府の年金政策に異を唱える AUR、SOS、POT が提出したブクラ・オプレスク労働大臣（PSD）に対する単純動議は上院で賛成 61 票、反対 59 票で採択された。報道によると USR も賛成票を投じた。
  - 他方、単純動議は政治的なシグナルにとどまり、同大臣を解任する法的根拠とはならない。

- **やり直し大統領選挙第一回投票結果**
  - 5 月 4 日、（昨年 11 月実施され、その後無効とされたためやり直しとなった）当国大統領選挙第一回投票が行われたところ、開票結果（開票率 100%）は以下のとおり。シミオン候補（ルーマニア人統一同盟（AUR））とダン候補（ブカレスト市長、無所属）が 5 月 18 日に行われる決選投票に進出。
    - ✧ シミオン（George Simion）下院議員 （AUR） 40.96%
    - ✧ ダン（Nicusor Dan ）ブカレスト市長(無所属) 20.99%
    - ✧ アントネスク（Crin Antonescu）元大統領代行・元上院議長 (PSD-PNL-UDMR 統一候補) 20.07%

- ✧ ポンタ（Victor Ponta）元首相（無所属（PSD から除籍））　13.04%
- ✧ ラスコニ（Elena Lasconi） クンプルング市長(USR)　2.68%
- ✧ その他の候補（6 名合計）　2.26%

➢ 投票率は 53.21%（全投票総数は 9,571,740 票）。無効とされた前回選挙（52.55%）よりも微増と（全投票総数は前回より約 11 万票増加）。今回、国内投票数は約 4.5 万票（44,943 票）減少したものの、海外投票者が約 15 万票も大幅に増加したため、国内投票の減少分を埋め合わせ、全体としての投票総数が増加。全投票数に占める在外投票数は約 10%。

【政党略称】PSD：社会民主党、PNL：国民自由党、AUR：ルーマニア人統一同盟、UDMR：ハンガリー人民主同盟、USR：ルーマニア救国同盟、POT：青年党、PUSL：社会自由ヒューマニスト党、AFD:右派の力連合

経済

（1） 主要経済統計とりまとめ（国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行　発表とりまとめ）

● **国家統計局　（INS）**

	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2
貿易収支（億€）	-209.199	-234.858	-272.117	-300.549	-333.927	-27.386	-56.169
消費者物価指数(%)	5.10	4.62	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02
失業率（%）	5.7	5.7	5.7	5.6	5.7	5.5	5.6
平均グロス給与（€）	1,699	1,721	1,732	1,775	1,861	1,793	1,797
平均ネット給与（€）	1,038	1,052	1,060	1,084	1,135	1,072	1,076

● **財務省　（MF）**

	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2
財政収支（億 lei）	808.702	962.369	1094.167	1257.192	1527.174	110.118	302.372
GDP 比（%）	-4.57	-5.44	-6.19	-7.12	-8.65	-0.58	-1.58

● **ルーマニア中央銀行（BNR）**

	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2
政策金利（%）	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高（億€）	631.87	657.78	628.41	611.74	621.35	608.37	625.93
経常収支（億€）	-178.58	-197.77	-242.10	-263.01	-293.70	-16.46	-48.09
前年同期　（億€）	-138.30	-160.63	-184.53	-197.70	-214.91	-14.20	-26.00
FDI（億€）	41.39	53.62	55.12	58.52	57.30	5.43	10.31
前年同期（億€）	43.82	51.71	59.04	66.11	67.48	11.48	16.60
前年同期比（%）	-5.54	+3.69	-6.64	-11.5	-15.08	-52.70	-37.89
中長期対外債務(億€)	1333.89	1388.23	1381.98	1537.34	1544.33	1534.61	1585.05
前年末比（%）	+9.2	+13.7	+13.2	+12.2%	+12.7	-0.6	+2.3
短期対外債務（億€）	491.35	473.58	481.50	487.20	491.42	484.82	497.82
前年末比（%）	+6.3	+2.4	+4.2	+5.4	+6.3	-1.3	-0.2

- **消費者物価指数（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2
消費者物価指数(%)	5.10	4.62	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02
食料品価格(%)	4.25	4.72	4.75	5.11	5.09	4.54	4.54
非食量品価格(%)	4.35	3.30	3.45	4.15	4.38	4.60	4.79
サービス価格(%)	8.60	7.88	7.66	7.56	7.10	6.54	6.42
ユーロ圏平均	2.2	1.7	2.0	2.2	2.4	2.5	2.3
EU27 カ国平均	2.4	2.1	2.3	2.5	2.7	2.8	2.7

- **業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2
鉱工業							
工業生産高（%）	-2.0	-3.6	-0.9	-1.3	-3.4	2.1	-3.2
工業売上高(名目)（%）	4.2	6.0	8.2	5.2	8.6	-0.4	-1.9
工業製品物価指数（%）	2.7	-1.7	-3.3	-0.4	-0.7	-0.1	4.0
新規工業受注高(名目)（%）	2.7	3.3	7.9	7.1	7.7	-3.5	-0.2
小売業							
小売業売上高(除:自動車・バイク)（%）	9.2	10.7	10.6	9.2	7.8	3.2	3.3
自動車・バイク売上高(%)	2.7	-1.6	6.3	5.0	-2.8	1.4	0.1
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	0.8	2.9	1.9	1.2	1.9	1.5	2.3
小売業売上高 EU 平均(%)	1.0	2.8	2.1	1.5	2.0	1.6	2.0
建設業							
工事(%)	-2.0	3.0	-11.6	-9.3	-14.3	34.1	6.7

（2）主要経済関連

- **ルーマニア国家統計局（INS） ルーマニアの 2024 年経済成長率を 0.8%に下方修正**
  - 4 月 10 日、INS は、2024 年の同国経済成長率を 2023 年比で実質 0.8%に下方修正する暫定データを発表した。同暫定データは、同年 3 月 7 日に発表した暫定データより 0.1%低い。2024 年のルーマニア経済成長は 0.8%増と、2023 年の 2.4%増を大幅に下回った。
- **ルーマニアの 2025 年 2 月の平均純給与は 5,351 レイ**
  - 4 月 11 日、 INS は、2025 年 2 月のルーマニアの平均手取り給与が、前月比 23 レイ（0.4%）増の 5,351 レイ（約 1,076 ユーロ）に増加した旨発表した。2025 年 2 月の平均税引前給与は 8,825 レイで、前月より 22 レイ（0.2%）増加した。
- **ルーマニア、2025 年 3 月の年間インフレ率が 5.1%と EU 加盟国中最高を記録**
  - 4 月 16 日、ユーロスタットは、ルーマニアの 2025 年 3 月の年間インフレ率が、欧州連合（EU）加盟国の中で最も高い 5.1%であった旨発表した。ユーロ圏のインフレ率は、2025 年 2 月の 2.3%から 3 月には 2.2%へと微減。
- **世界銀行 ルーマニアの 2025 年経済成長率を 1.3%と予測**
  - 4 月 24 日、世界銀行（WB）は、2025-2026 年の欧州・中央アジア（ECA）地域の発展途上国の経済成長率が 2.5%に鈍化する旨予測を発表し、ルーマニアについては 2025 年に 1.3%、2026 年に 1.9%の経済成長となる旨予測した。また、2024 年は、域内全体の経済成長率は 3.6%と安定し、個人消費と堅調な実質賃金の伸び、送金の増加、消費者信用の伸びなどに支えられ、EU の経済成長率低下による外需の弱含みを相殺した。

（3）ルーマニア・モルドバ経済関係

- **ルーマニアとモルドバの貿易額　2024 年は約 70 億米ドルに**
  - ➢ 4 月 7 日、モルドバのニストル副首相は、ルーマニアがモルドバ共和国の対外貿易総額の 21.3%となる、約 70 億米ドルだった旨、キシナウで開催された「投資・開発・欧州統合」経済フォーラムの開幕式で述べた。
  - ➢ ルーマニアはモルドバの最も主要な経済パートナーで、2024 年の貿易総額が約 70 億米ドルに達しただけでなく、ルーマニア資本の 1,642 社がこれまで 67 億米ドル以上の投資を行っている。

（4）その他トピックス

- **「アンリ・コアンダ」空港の新ターミナルの入札を開始**
  - ➢ 4 月 9 日、ブカレスト国営空港会社（CNAB）は、「アンリ・コアンダ」空港の新ターミナルおよび関連空港インフラの設計入札を開始した。これはルーマニアで最大かつ最も複雑な空港インフラプロジェクトであり、調査、コンセプト、2040 年の交通量予測に対応するために必要な技術支援等のための設計サービス契約を締結するための入札となる。このプロジェクトの主な目的は、必要な施設をすべて備えた新しい旅客ターミナルを建設することであり、その広さは約 17.6 万平方メートル、2040 年の予測旅客数 3,000 万人／年に対応するためのものである。
- **ルーマニア　EU 加盟国の中で海外への移民割合が最高**
  - ➢ 4 月 16 日、アルファバンクは、2024 年のルーマニアは、EU 加盟国の中で最も海外への移民の割合が高く、同国の人口の 24%にあたる約 460 万人が海外に住んでいる旨分析した。また、2023 年の海外からの送金は約 130 億レイで、GDP 比は 2.8%となり、6.2%のクロアチアに次ぐ水準である旨分析した。
- **ルーマニアのワイン生産量　2024 年には約 19.8%減の 370 万ヘクトリットル**
  - ➢ 4 月 17 日、国際ブドウ・ワイン機構（OIV）は、悪天候、雹、干ばつが重要な時期に重なったため、ルーマニアの 2024 年のワイン生産量は前年比 19.8%減の 370 万ヘクトリットル（mhl）となり、EU 内で最も大きな減少率のひとつを記録した旨発表した。

外政

（1）要人往来

- **フレゼアヌ外相、NATO 会議で大西洋の固い絆を提唱**
  - ➢ 4 月 3 日、フレゼアヌ外相は、ブリュッセルでの NATO 加盟国外相会議に出席し、強固な北大西洋同盟には強固な大西洋の絆が不可欠であり、欧州はその努力を強化すべきである旨述べ、公正で永続的な平和の必要性を再確認し、ルーマニアは同盟国とともにウクライナを支援し続ける旨発信した。

（2）海外支援

- **ルーマニア　2024 年に 5.87 億米ドル相当の国際支援を供与、主な受益国はモルドバ共和国**
  - ➢ 4 月 16 日、経済協力開発機構（OECD）は、2024 年にルーマニアが供与した政府開発援助額が 2023 年に比べて 14%増加した旨報告した。2024 年にルーマニアが供与した政府開発援助は総額 5.87 億米ドルで、過去 10 年間の増加傾向を継続し、これまでの最高水準となった。2024 年におけるルーマニアの援助の主な受益者はモルドバ共和国で、二国間 ODA 総額の 50%以上（7660 万米ドル）を占め、前年比 19%増となった。実施された支援は、モルドバの EU 加盟に向けた制度的能力の強化や、ロシア連邦によるウクライナ侵略戦争の影響への対策だった。

防衛・安全保障

（1）事案・イベント等

- **ルーマニア空軍、医療支援任務を実施**
  - 4 月 9 日の夜、合計 18 名の患者と 29 名の家族が、ルーマニア空軍の C-130 輸送機でイスラエルからルーマニアに、更にその後、ルーマニア空軍の C-27J 輸送機で、患者 8 名と親族 13 名がオスロに移送された。
  - その他の患者は、ルーマニアから EU 各国の航空機でマルタとルクセンブルクに移送され、4 名の患者と親族 8 名はルーマニアで治療を受けるために残留している。
  - 本任務は、EU の市民保護メカニズム内の共通緊急通信情報システム（CECIS）を通じて欧州委員会緊急対応調整センター（ERCC）から受けた要請に応える形で、内務省緊急事態総局の要請により実施され、ガザ地区の一般市民を対象とした今年 3 回目の支援ミッションとなる。
  - これまで合計 40 名以上の患者と約 90 名の親族を輸送している。
- **ロシア軍 ウクライナへの無人機攻撃 ルーマニアとの国境付近**
  - 4 月 28 日夜から 29 日にかけて、ロシア軍は、ルーマニアとの国境付近のウクライナに対して、民間人や港湾インフラを標的とした一連の無人機攻撃を行った。
  - 国防省の警戒・監視システムは、当該地域の空域を常時監視し、規定に従いルーマニア空軍の F16 戦闘機 2 機とイタリア空軍のユーロファイター戦闘機 2 機が、それぞれ第 86 空軍基地（ボルチャ）と第 57 空軍基地（ミハイル・コガルニチェアーヌ）から相次いで離陸し、ルーマニア領空の監視・防衛任務を遂行した。
  - ウクライナへの攻撃実行中、ルーマニアのレーダー監視システムは、攻撃に関与した無人機の 1 機の航跡が、チェ・ア・ロゼッティ（C.A. Rosetti）の東約 8km の地点においてルーマニア領土上空を約 500m、ごく短時間通過した可能性を示した。この航空目標物は最終的にウクライナ領土上空で見失っている。
  - ルーマニア国防省は、定められた標準手順に従い、一連の事態によって被害が生じた可能性のある地域の調査を実施するとともに、空域監視任務を継続する。
- **国防最高評議会（CSAT）の開催**
  - 4 月 30 日、ルーマニア国防最高評議会（CSAT）が開催され、ボロジャン暫定大統領が以下のプレス声明を発表。
  - 国防大臣は、6 月にハーグで開催される NATO 首脳会合の準備のための交渉および技術的協議において、ルーマニアを代表して、国の防衛と NATO 東翼の強化を確保するための防衛予算の段階的増額を引き受けるよう命じられた。
  - 国防省と経済・起業・観光省が主体となり、欧州委員会が追加の防衛支出のために提供した融資の申請を準備する作業グループが設置された。融資の返済期間は 40 年を超え、猶予期間は 10 年となる。
  - 6 月にハーグで開催される NATO 首脳会合までに、ルーマニアは、この欧州プログラムを通じて資金調達を要請するプロジェクトのリストを提出する。
  - 無人機の撃墜および国内での軍事活動の実施に関する法律は 5 月中には議会の手続きに入る見込みで、ボロジャン暫定大統領は、6 月末までにすべての法律が公布されることを期待している旨述べた。
  - 他の議題として、南東欧地域における軍事移動の確保を目的とした国家軍事機動回廊計画の更新が取り扱われ、ルーマニアが参加した新たな軍事機動回廊は、現在設計段階にあるドナウ川に架かる新橋のプロジェクトがこの計画の重要な一部として含まれていることを確認した。

（2）訓練・演習等

- **NATO 多国籍演習「DACIAN SPRING 2025（DASP25）」の実施**
  - 4 月 16 日、ルーマニア国防省は、5 月 5 日から 23 日の間、NATO 加盟 10 か国（ベルギー、ブルガリア、フランス、イタリア、ルクセンブルク、北マケドニア、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スペイン）から約 4,000 名の兵士と 913 名の技術者が、ルーマニア領内で開催される多国籍演習「DACIAN SPRING 2025（DASP 25）」に参加する予定と発表。（注：3 月のフランスメディアの報道では、本演習はルーマニアの大統領選挙のため延期されるとされていた。）

- 本演習は、NATO 多国籍師団司令部南東（MND-SE）によって計画・指導され、スマルダン、チンク、カプミディア等の国内演習場で同時に実施され、陸、空、海、サイバーなどルーマニア軍の全カテゴリーに属する組織と、MND-SE 及び NATO 加盟各国の部隊が参加し、NATO 軍の反応能力と相互運用性の向上を演練する。
- また、本演習で、ベルギーの機動大隊が初めてルーマニア領土に展開する。

（3）主要な会談・会合等

- **国防大臣、EU 加盟国 防衛大臣非公式会議に出席**
  - 4 月 2 日、トゥルヴァル国防大臣は、ワルシャワにて、欧州委員会が最近採択した「欧州防衛白書」に盛り込まれた主な戦略的方向性と提言を分析することを目的とした EU 理事会（議長国ポーランド）の国防大臣非公式会合に出席し、ルーマニアは「既存の手段や、例えば『REARM Europe』内の『SAFE』手段（Security Action for Europe）のような新たなメカニズムを通じた支援の恩恵を受けることなどにより、現在および将来の課題に対応できる欧州の産業および技術基盤の強化に関心がある」旨強調した。
- **国防大臣、ポーランド国防大臣と会談**
  - 4 月 2 日、トゥルヴァル国防大臣は、ワルシャワでの EU 理事会の国防大臣非公式会合の傍ら、ポーランドの国防大臣と会談し、NATO 東翼における防衛と抑止態勢を強化するための NATO の任務を含め、両国の軍隊間の実質的な協力の重要性を強調した。
  - また、数多くの共同プロジェクトや活動、そしてウクライナへの一貫した支援に反映されているように、ルーマニアとポーランドの関係が極めて良好であることが評価された。
- **国防大臣、ベルギー国防大臣と会談**
  - 4 月 2 日、トゥルヴァル国防大臣は、ワルシャワでの EU 理事会の国防大臣非公式会合の傍ら、ベルギーの国防大臣と会談し、両国間の協力関係のレベルと展望が評価され、ルーマニアにおける同盟プロジェクトとミッションの持続性と運用上の継続性の確保、ルーマニア軍の能力の近代化と強化、相互運用性と訓練の強化、そして何よりもウクライナとモルドバ共和国に対するさまざまな形式での支援について強調した。
  - また、トゥルヴァル国防大臣は、ベルギーが黒海機雷対処タスクグループ（MCM BS TG）への参加に関心を示した事に対して謝意を示した。
- **国防大臣、ブルガリア国防大臣から招待を受け訪問、会談**
  - 4 月 7 日、トゥルヴァル国防大臣は、ブルガリアのザプリアノフ国防大臣の招待を受け、ソフィアを公式訪問、会談を実施し、二国間および地域協力の深化、および防衛分野における多国間形式での協力の方法の特定に焦点を当てた。
  - また、ルーマニアとブルガリアが実施している高度な共同活動、NATO および EU 内での優れた協力体制、そしてあらゆるレベルとあらゆる部隊カテゴリーにおける数多くの軍事イニシアティブや演習への共同参加が強調された

（4）部隊・人員・装備品・防衛産業など

- **ルーマニア空軍 バルト空域における新たな NATO 領空警備任務**
  - ルーマニア空軍は、2025 年 4 月から 7 月にかけて、約 100 名の軍人と 4 機の F-16 戦闘機部隊をリトアニアに配備し、ポーランド空軍とともに、バルト空域における新たな NATO 領空警備任務を遂行する。
- **国防省、米軍撤退に関する報道に対する見解を発表**
  - 4 月 8 日、ルーマニア国防省は、米軍がルーマニアおよびポーランドから約 1 万名の兵士を撤退させるという報道に対する見解を次のように発表した。
  - ルーマニアは、米軍の撤退の可能性に関する通知を受けていない。
  - ルーマニアと米国の関係は、戦略的パートナーシップに基づき、20 年以上にわたり強化され、米軍兵士は現在もルーマニアにおける演習に参加し、今後も参加が予定されている。
  - ルーマニアの第 57 空軍基地（ミハイル・コガルニチェアーヌ）は、今後、近代化と拡張により最大 1 万名の兵士を収容できる地域の戦略拠点となる予定で、現時点で 1,400 名以上の米軍兵士が駐留している。

- **イタリア空軍、NATO ルーマニア領空警備任務を開始**
  - 4 月 8 日、第 57 空軍基地（ミハイル・コガルニチェアーヌ）にて、トゥルヴァル国防大臣や駐ルーマニア・イタリア大使が出席し、イタリア空軍の NATO ルーマニア領空警備任務開始に伴う記念式典が開催された。
  - 任期は 4 か月間で、イタリア空軍部隊は、パイロットや技術スタッフなど約 180 名の軍人と 4 機のユーロファイター機で構成されている。
- **ルーマニアが初の軍用無人機を開発中**
  - 4 月 19 日、当地メディアが報じたところによれば、カーフィル社(Carfil Brasov)とペリスコープ・アビエーション社(Periscope Aviation)が、ルーマニアにとっては初となる軍用無人機 2 機種（Cuda と Sirin）を本年に開発する。
  - 「Cuda」は 1.5kg の装備を搭載でき、26 分の自律飛行時間を有する。最大高度 4,000m に達し、50km の地対空通信と 200km の空対空通信が可能。
  - 「Sirin」は搭載量が 14.5kg と大きく、自律飛行時間は 36 分である。高度 5,000m で飛行でき、地対空通信距離は 100km で、洋上環境向けに設計されている。
  - 生産は今夏に開始される予定で、全 6 機種のうち、洋上用に設計されたものが他にも 2 機種あるが、今年の生産は予定されていない。
- **米国務省 ルーマニアへ新たな PATRIOT ミサイルの売却承認**
  - 4 月 28 日、米国務省は、ルーマニアへの PATRIOT ミサイルシステムの売却を承認した旨をシステムの概要などとともに発表した。内容は以下の通り。
  - 本システムは、2024 年 9 月にルーマニアがウクライナに供与した PATRIOT システムに置き換わるもので、より近代化されている。
  - 取得予定システム：AN/MPQ-65 Config.3 レーダーステーション、インクリメント 3 レーダーセット 1 基、AN/MSQ-132 交戦管制ステーション 1 基、M903 発射ステーション 2 基、電力プラント（EPP）III 1 基。
  - 推定総費用：2.8 億万米ドル
  - この売却案の実施には、機器の実戦配備と訓練を支援するため、最大 3 年間、約 5 名の米国政府と 5 名の米国請負業者の代表者がルーマニアに駐在する必要あり。

我が国との関係

（1）二国間関係全般

- **片江大使によるチェケ開発・公共事業・行政大臣への表敬訪問**
  - ４月１日、片江大使は、チェケ開発・公共事業・行政大臣を表敬訪問した。両者は、耐震・減災分野での交流・協力活発化や、極限レーザー核物理研究所（ELI－NP）プロジェクトの前進を歓迎するとともに、産官学の連携を通じたこれらの分野での更なる協力の可能性を探っていくことで一致した。

- **プレドイウ副首相兼内務相による大阪・関西万博の PR**
  - ４月４日、片江大使はプレドイウ副首相兼内務相を招き、大阪・関西万博を契機とした二国間協力関係の推進について話し合った。両者は、大阪・関西万博においてルーマニア・パビリオン等を盛り上げていくことで一致した。

- **片江大使によるボロシュ欧州投資・事業相の表敬訪問**
  - ４月８日、片江大使は、ボロシュ欧州投資・事業相を表敬訪問した。両者は、日・ルーマニアが協力して進める極限レーザー核物理学研究所（ELI-NP）をはじめとした研究開発分野や、ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画（通称：M6）をはじめとした鉄道や橋梁などのインフラ分野での両国の経済関係のさらなる推進に向けて一致した。

- **「ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画」（通称 M6 計画）トンネル掘削機の発進式**
  - ４月９日、M6 の Tokyo 駅予定地において、「ブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画」（通称 M6 計画）のトンネル掘削機（TBM）の発進式が行われた。式典にはチョラク首相、グリンデアヌ運輸・インフラ大臣、片江駐ルーマニア・日本大使、アルタン駐ルーマニア・トルコ大使、ミクラウシュ・メトロレックス社総裁の他、JICA 関係者や関係者が出席した。式典では、チョラク首相からは、本プロジェクトは単なるインフラプロジェクトでなく、ルーマニアの進展、野心、将来へのコミットメントである旨の表明があり、グリンデアヌ運輸・インフラ大臣からは、本プロジェクトに対する日本からの支援及び忍耐への深甚なる謝意が表明された。片江大使は、ブカレストの人々の生活と持続可能な開発に資するこのプロジェクトを支援できることは大変喜ばしく、M6 が日ルーマニアの間の戦略的パートナーシップの象徴としてルーマニアで愛されることを期待する旨述べた。
- **2025 年大阪・関西万博ルーマニア館、インタラクティブな多感覚的アプローチ**
  - ４月 13 日、大阪・関西万博が開幕し、ルーマニア・パビリオンも開館。ルーマニアの展示スペースは、サブテーマ「Saving Lives」のエリアに位置し、面積は約 900 平方メートル。同博覧会の一環として、ルーマニアの経済・商業関連イベントは、経済、研究、教育、エネルギー、デジタル化、IT&C、投資機会等の分野に焦点を当て、2023 年 3 月に日本とルーマニアの間で締結された戦略的パートナーシップの強化・発展を目指す。

- **片江大使によるタンツォシュ副首相兼財務相の表敬訪問**
  - 4 月 15 日、片江大使は、タンツォシュ財務相を表敬訪問した。会談では、2023 年に両国が戦略的パートナーとなってから初めて実施されたサムライ・グリーン債の発行や、掘削機によるトンネル工事が始まったばかりの最後の円借款案件であるブカレスト国際空港アクセス鉄道建設計画(M6 プロジェクト)等について協議し、両国の共同事業のさらなる発展のための協力していくことで一致した。

- **片江大使によるイントテロ文化相の表敬**
  - 4 月 22 日、片江大使は、イントテロ 文化相を表敬訪問した。会談では、大阪・関西万博におけるルーマニア館の開館及び会期中に予定されているルーマニアの各種文化団体による公演、戦略的パートナーシップに基づき昨年東京に設立されたルーマニア文化センターや、姉妹都市間の文化協力につき意見交換が行われた。また、ブカレストのみならず地方都市における幅広い文化事業を通じて、日本とルーマニア双方の文化的魅力を発信し、交流していくことを確認した。

- **片江大使によるルーマニア・日本友好議員連盟との面会**
  - 4 月、ルーマニア・日本友好議員連盟の新メンバーが発表。
  - 4 月 30 日、片江大使は、ミハルチェア新ルーマニア・日本友好議員連盟会長及びムラリウ同事務局長と面会した。面会では、2023 年 3 月に署名された両国間の戦略的パートナーシップの意義が話し合われ、安全保障、経済、イノベーションなどの分野での新たな協力の可能性につき活発な意見交換が行われ、議員交流に加えて、文化・教育交流を通じた相互理解の促進と協力関係のさらなる拡大に向けた意欲を確認した。

（2）広報・文化関係、大使館主催事業等

- **第 6 回花見の開催**
  - 4 月 12 日、在ルーマニア日本国大使館は、ミハイ一世公園（ヘラストラウ公園）内の日本庭園で「花見」を開催した。開会式では片江大使による挨拶に続き、ダン・ブカレスト市長やバチウナ文化次官からも祝賀の挨拶があった。
  - ステージでは、空手、和太鼓、合気道のパフォーマンスや、生け花のライブパフォーマンスが披露された。庭園内では茶道、浴衣の着付け、折り紙、書道、弓道、剣道、日本酒試飲、絵馬の作成、豆つかみなど、様々な日本の伝統文化に触れられる機会となった。